

内子

ものがたり



1手前の小高い山が曾根城址 2城址にある酒神の松尾神社を説明する源田さん。曾根氏が酒屋を営んでいたことに由来 3耕作地として再利用している本丸 4見張所からの眺め。当時は町内を一望できた

曾根城址は城廻地区にあります。国道56号の「八日市護国町並入口」の標識から松山方面に向かって正面に、標高100メートルほどの小山が見えます。そこが町の史跡にもなっている曾根城址です。

築城の年代ははつきりしませんが、一説によれば鎌倉時代に続々喜谷行邇(伊賀守行邇)がこの曾根城に移り、弘安の役(1281年)に出陣したと伝えられています。以降、室町時代末期の天正年間にわ

たつた城です。資料で確認される城主は、曾根高昌、その子宣高などとなっています。

曾根城は中山川、麓川に囲まれ、露出した岩盤に覆われて東西の傾斜は険しくなっています。北

方に幅11メートル、深さ9メートルの堀切や堅掘をめぐらせた、地方では珍しい山城です。本丸は約5千平方メートルあって平山城の大洲城本丸よりもかなり広く、大洲隨筆に「天正15年(1587年)正月豊臣家ノ為ニ落城、ソノ後廢絶、今(1760年以後)畠トナル」と記されています。現在も本丸が史跡以外に耕作地として再利用されているのは珍しいことです。

城廻自治会では、平成15年から地域づくり計画書に「曾根城址の整備公園化」事業を掲げ、遺跡調査や南東部の出丸、見張所などの草刈り、雑木の伐採などを行っています。入口が分かりにくいため、表示や遺跡図の説明板の設置も検討しています。

編集幸記

先日、観光農園のブドウをいただきました。もともとした食感が口の中に広がってジューシーでとてもおいしかったです。テレビ番組みたいに、観光農園の食べ歩きをしてみたのですが、会長、差し入れありがとうございました。(光)

今号から紙面の基本色を変更しました。「広報うちこ」は原則として「虹(基本色)」の3色刷りになっています。「秋」をイメージしてみたのですがいかがでしょうか? 個人的には「おいしそう」な色になつたなと思つていらのですが……(み)

◎第六話 源田恒雄さん(護国)

表紙の写真
泉谷地区の棚田を守る

会(上岡満榮会長)では、棚田オーナー制度を取り入れています。9月13日、オーナーの皆さんと地域の人たちが一緒に、稲刈りを行いました。

写真は川中憲規さん(川上)。昔ながらの「おいこ(背負子)」も、現役で大活躍していました。